

仙台市長 奥山恵美子 様

復興公営住宅入居後の支援に関する要望

2015年6月5日

日本共産党仙台市議団

団長 嵯峨サダ子

今年度、多くの復興公営住宅で本格的な入居が始まっています。

復興公営住宅は、被災した場所も状況も違う被災者が集まって入居し、ゼロからコミュニティ構築をしなければなりません。それなのに、自治会が出来るまでは新しい集会所は閉まりっぱなしで利用できない状況です。また、昨年入居しすでに自治会が設立されている復興公営住宅でも、自治会運営に苦慮している実態があります。顔も名前もわからない方々が関係をつくっていくためには、入居者任せではなく当初からの行政の支援が決定的に重要です。

安心して住み続けられる住宅となるよう環境改善も合わせ、市が責任を果たすよう以下の点を要望します。

記

一、復興公営住宅入居者への福祉的支援を強め、市の責任で見守りなどの支援を行うこと。

一、復興公営住宅の集会所をすみやかに開放すること。また、仮設住宅で配置したような支援員を常駐させること。

一、自治会運営をサポートする各区まちづくり推進課の体制充実をはかること。

一、復興公営住宅に入居後、緊急に改善を要する施設設備上の問題点も明らかになっています。生活しやすい住居となるよう、入居者の視点に立って環境整備や要望にこたえること。

・復興公営住宅は1階に集合ポストしかなく、各住戸の玄関前にポストがないために、不便です。高齢者や障がいのある方は、集合ポストにさえいくのが困難になっています。各住戸の玄関前に新聞受けやポストを設置すること。

・高層階の復興公営住宅には共有通路の柵部分にボード等が設置されておらず危険な住宅があります。風が直接吹き付け、玄関ドアが開かないときがあると苦情が寄せられています。また非常階段も柵のみで、非常に危険です。早急に改善すること。

・ペット可の住宅には、1階部分にペットの足を洗う場所がなく、住宅の衛生管理上の問題があります。1階部分に簡易な洗い場を設置すること。

・駐車場が足りず、路上駐車などが問題になっています。市が責任を持って駐車場を確保すること。

・収納スペースが圧倒的に足りません。物置を設置するなど対策を講じること。

一、市が復興公営住宅ごとに入居者の実態や要望を把握し、改善につなげること。

以上